

## 帝京平成大学専門職大学院「臨床心理面接演習Ⅱ」 (修士1年) 授業実践報告

須藤, 武司  
東海大学医学部 : 客員研究員

<https://hdl.handle.net/2324/4842529>

---

出版情報 : オンライン授業の地平 : 2020年度の実践報告, pp. 66-66, 2021-04-30. 雷音学術出版  
バージョン :  
権利関係 : Creative Commons Attribution-NonCommercial-NoDerivatives International

## 1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業は、大学附属臨床心理センターでの実習や将来の臨床現場での面接・介入の際に求められる基本的な知識と技能を習得し、心理臨床における専門職として来談者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができることを目的としている。講義とロールプレイを基本とする演習とを組み合わせ、逐語記録の作成およびプレゼンテーションも実施し、各回に講義や演習の振り返り、質問等を記すリアクションペーパーの提出を求めた。成績評価の方法は、ディスカッション等への参加態度・課題への取り組み、およびロールプレイ逐語記録、質疑応答を含むプレゼンテーション、最終レポートによって総合的に判断した。

後期授業開講にあたり大学は「オンライン授業実施ガイドライン」を策定し、本授業もこれに基づき実施することとなった。具体的には、対面式授業を基本に授業支援システム manaba course2 をプラットフォームとするオンデマンド授業、テレビ会議システム Microsoft Teams を利用したりリアルタイム授業をそれぞれ組み合わせたものである。本授業では、冬季における新型コロナウイルス感染者数増加を見越し、ロールプレイ逐語記録によるプレゼンテーション(第12回)以降をオンライン授業に切り替えられる設計にした。

## 2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

年末になり新型コロナウイルス感染者数が急増したため、緊急事態宣言の再発令が検討される状況となり、年明けの授業を急遽オンラインに切り替えて実施することにした。この段階で演習のプログラムは概ね完了しており、オンライン授業は理論のまとめと演習の振り返りに関する動画(mp4)と講義資料(pdf)を提供し、オンデマンドにて実施した。授業の締めくくりがオンラインとなったことで、受講生には履修の達成感を味わったり、今後の実践意欲を高めたりするなど、精神的に区切りをつける機会が乏しかったのではないかと推察される。また、受講生からは「理論だけでなく実践の時間が多くて有難かった」「前期に理論、後期に実践と、もう少し深く体験したかった」などという感想もあった。

来年度以降も授業のオンライン化が必要となる局面に至ることを想定し、こうした感想に応ずるための授業設計とその方法の探索が急務であることが認められた。

心理臨床専門職養成プログラムにおいて、オンライン授業の枠組みは大きな障壁となる可能性がある。特に、ロールプレイを中心とした演習科目では、テレビ会議システムを利用した画面越しの「面接」と対面による「面接」との質の違いから、オンラインによる演習はその教育目標に到達し得るものであるかどうかについて熟慮、検討の余地がある。本授業では、対面式授業とオンライン授業とを組み合わせた大学ガイドラインに基づき、感染症拡大の状況に応じた柔軟な対応をとることが可能となったが、例えば医学部などで実施される客観的臨床能力試験(Objective Structured Clinical Examination: OSCE)など構造化された面接評価については、遠隔による評価デザインの開発が進んでいる(松山ら, 2020)。心理臨床専門職に必要な面接技能習得に関しては、遠隔カウンセリング、遠隔遊戯療法の実施を含め、現状では探索段階にある。したがって、パンデミック下での教育システム構築については試行錯誤を重ねながら今後も継続的に取り組み、適宜情報を共有しながら洗練させる必要があるものと考えられる。

松山泰, 岡崎仁昭, 浅田義和他(2020)医学生臨床実習, Pre-, Post-CC OSCEの代替コンテンツ:河北班からの提案. 医学教育. 51(3). 216-218.